

南地域まちづくり かわら版

認知症徘徊高齢者捜索模擬訓練をおこないました！

♥ 気になる人を見かけたらやさしく声をかけ、助け合いましょう。

令和元年 11 月 26 日（火）、認知症徘徊高齢者捜索模擬訓練をおこないました。

認知症になった人やその家族をはじめ周囲の皆さんが、認知症について正しく理解し、温かく見守り、支えあうことが大切です。認知症状のある方への声のかけ方や接し方を学ぶことでみんなが安心して暮らしやすい地域を目指します。

民生委員の方、児童委員の方、高齢者福祉協力員の方など地域にお住まいの皆さん 54 名の方にご参加いただきました。



「どこへ行かれますか？」



「何かお困りですか？」

今回の模擬訓練では、二つのコースに分かれ、GPS を使って迷子になっている方の位置を特定したり、声掛けの仕方を学びました。

模擬訓練に参加された方からは、「日曜日の開催にして婦人や子供も参加しやすくするとよいと思う。」との声がありましたので、より多くの皆さんが参加しやすい訓練にしていきたいと思っております。来年もぜひご参加ください。

南地域のたからもの vol.28 ～十連寺跡～

大口中学校から少し西側、現在の丸一丁目地内には、昔「白金」という地名がありました。ここには、十連寺というお寺があったと言われています。昭和10年（1935）の『大口村誌』によると、十連寺が「やろか水」によって流れてしまい、今は田となってしまった…と書かれています。



「やろか水」とは、木曾川中流域に伝わる昔話に出てきます。現在の岐阜県美濃加茂市から犬山市、扶桑町、江南市をはじめ、岐阜県羽島市にも同じような話が残っています。地域によって多少の違いはありますが、長い間雨が降り続き、木曾川があふれるほど増水した時、川の方から「やろか、やろか」という声が聞こえ、「よこさば、よこせ」と叫んだら雷や豪雨とともに川の水が膨れ上がり、川が氾濫、もしくは堤が決壊して濁流が周辺の村々を襲った…という内容はおおむね共通しています。

昔の地名などから、この土地が昔どのようなあゆみをたどってきたのか知る手がかりになりますが、このように、一見水とあまり関係ない地名であっても、昔話や言い伝えなどが、土地を知る一つのきっかけになることもあります。

『きをつけて きけんはここに かくれてる』

（令和元年度南小学校3年生児童優秀作品）

冬季は日没の早い時期です。皆さんは暗がりです。いつまでも遊ばないよう、暗くなる前に帰宅しましょう。



*この標語は“のぼり旗”にして南小学校区内にある学共（学習等共同施設）や集会所などの周辺に立てられ、ぼうはん（防犯）やぼうさい（防災）の呼びかけ（啓蒙）をしています。こののぼり旗を見かけたら書かれている文を今一度読んでみてください。少し気持ちが引きしまりますよ。